

岩手大学農学部における高校生向け広報活動 Publicity work for high school students in the faculty of agriculture, Iwate University

○山本清仁*

Kiyohito YAMAMOTO

1. はじめに

岩手大学農学部において農業農村工学の教育は、共生環境課程農村環境デザイン学コースにおいて行われており、材料施工分野の教育もそのコースにおいて行われる。材料施工に関する教育を受けるには2年次のコース配属で農村環境デザイン学コースを選択する必要があるが、高校生向け広報活動は入学定員の最小ユニットである課程単位で行う場合が多い。ここでは、材料施工分野と関連する部分を含め、主にオープンキャンパスとホームページにおける活動について報告する。

2. オープンキャンパスと公開講座

岩手大学のオープンキャンパスは、毎年8月上旬と10月中旬に行われ、主に岩手県内の高校生が来場する。共生環境課程の研究紹介は、外から入りやすい1階の実験室に各研究室のポスターが並び、その前で大学生が説明する。それとは別に研究室独自で公開を行うこともできるが、実施している研究室が少ないのが現状である。筆者は、東日本大震災以降、津波被災農地の物理探査を行っており、その内容のポスター展示を行った。図-1は、2013年8月実施のオープンキャンパスにおいて、研究室所属の学生が高校生に研究内容を説明している様子で、塩分濃度の推定についてECメータを用いて説明している。オープンキャンパスに来場する高校生の多くは、本学の受験を視野に入れており、効果的な広報活動ができる貴重な場となっている。



図-1 オープンキャンパスの様子
Fig.1 The snapshot of the open campus day



図-2 公開講座の様子
Fig.2 The snapshot of the extension lecture

岩手大学農学部では毎年7月上旬に高校生を対象とした「農学部4課程実験講座」を行っており、筆者は古賀潔教員とともに2011年の実験講座を担当した。実験の内容はコンクリートの圧縮強度試験と突固めによる土の締固め試験であり、堅い内容に敬遠され受講者数は他課程の半分程度の10名であった。実験講座の様子を図-2に示す。まず農学部でコンクリートを扱うことについて、満濃池の話から農業に水が必要であり、そのためにダムや水路等が存在し、それらの建設にコンクリートを扱う必要があるということを1時間弱説明し、その後、それぞれの実験を1時間ずつ行い、計3時間の実験講座となった。地味な内容であり、魅力を感じてもらうには至らなかったが、普段扱えない圧縮試験装置に触れて良かったという感想もあった。

*岩手大学農学部, Faculty of Agriculture, Iwate University, キーワード: 材料施工, 広報活動, 高校生

3. ホームページとパンフレット

岩手大学農学部に関連するホームページは、農学部で管理しているホームページ、課程（学科）管理のホームページ、コース管理のホームページに分かれ、研究室によっては独自で管理しているホームページがあり、管理主体により4種類に分かれる。ホームページの注目度指標のヒット数（閲覧数）で比較すると、農学部管理のホームページが一番良く閲覧されており、大きな部局管理のホームページを如何に有効に活用するかが広報においてはカギになると考える。

また、課程とコースのホームページのヒット数を調べた結果（図-3）より、センター試験終了直後から2次試験願書提出日までのヒット数が多い傾向にあり、この時期の前までに内容を更新すると効果が高いと思われる。

研究室独自のホームページについて、筆者はFacebook（図-4）を利用しているが、当初は研究室配属前の3年次学生を対象として、研究活動を紹介するホームページとしてスタートした。広報の効果はまだ分からないが、高校生の閲覧も意識して編集しており、試験的に受験生へのメッセージも掲載している。

個人の研究紹介を紹介する稀な機会として、農学部入学案内のパンフレットがあり、偶然ではあるが2013年度のパンフレットに筆者の研究が掲載された。1時間程度インタビューを受けて、ライターが受験生に理解できるように作成した文章が掲載される。同様の内容が農学部管理のホームページ（図-5）に掲載されたが、それらの効果は今後確認の予定である。

4. さいごに

高校生向け広報活動としてのオープンキャンパスやホームページ等について述べてきたが、その他に大学教員が高校へ赴き大学の宣伝や講義を行う活動、岩手県内ローカルの岩手大学紹介の3分間のテレビ番組（IBC岩手放送「ガンダイニング」）等もあり、広報の手段は多くあると思われる。しかし、受験生獲得のためには、いわゆる大学の「入口」「出口」の説明を明確に行う必要があると言われており、農業農村工学分野においては就職状況の「出口」の部分は説明しやすいが、農学部の中の工学分野であることやコンクリートを扱うこと等に抵抗を感じる高校生は多くおり、受験生自らの興味である「入口」部分の説明に窮する場面が多い。高校生に対して、この分野に関わることの意義ややりがいなどを自然な形で伝える工夫が必要であると思われ、材料施工分野あるいは農業農村工学分野が社会に役立っている事例や将来的に期待されている事項等の紹介を含む高校生向けコンテンツを作成し、あらゆる媒体で広報することは産官学で取り組むべき課題であると考えられる。

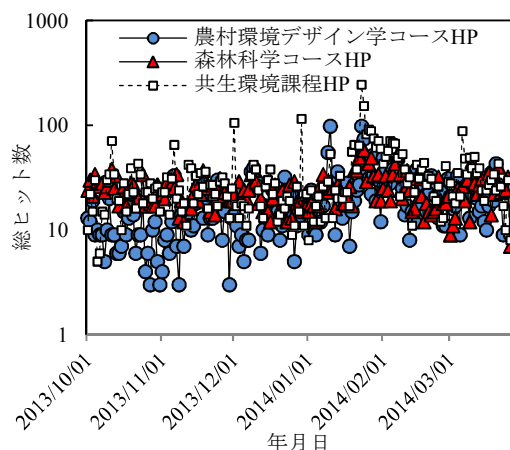


図-3 ホームページのヒット数
Fig.3 The number of the hits of the homepage



図-4 Facebook を利用した研究室紹介
Fig.4 Introduction of laboratory using Facebook



図-5 農学部ホームページ
Fig.5 Homepage of faculty of agriculture